コラム

岩手の桜

岩手県盛岡市に，［石割桜］と呼ばれる珍しい桜の木がある．高さ 11 m を超す見事な白彼岸桜であるが，その太い幹が，長さ 6 m，高さ 1.5 m ほどの花崗岩の巨石を，真二つに割つて立つているのが不思議である．

そこで，どうすればこの事実を合理的に説明できるか，若い研究者にたずねてみたら，いろいろな面白い仮説が生まれた．

大別すると，巨石の凹みに生えた桜の根が張つて成長し，ついには石を破壊して，さらに割れ目を押し広げたという説と，他の原因で割れた石の割れ目に，桜が生えて成長したにすぎないとする説になつた．

細かい点では，生物学的，鉱物学的，化学的，物理学的，あるいはまた，気象学的なメカニズムも提案され，それぞれの説を立証する事実を想定して議論が白熱した．

ともかく，写真をながめただけでも春の夜のひとときを楽しく過ごせたので，花の季節は過ぎたけれど，近く，是非，みんなで現地調査をしてみようということになつた．

（盛岡市商工観光課　提共）

（新日本製鉄(株)製鋼研究センター　溝口庄三）

編集後記

7月号をお届けします．秋の講演大会に発表を予定されている方は，申込書と講演概要原稿を送り終わり，ひとまずほつとされている頃かと御推察申し上げます．

一月号の編集後記に少し触れてありましたが，鉄鋼協会の維持母体である，鉄鋼業を取り巻く環境の極度の悪化に伴い，白松前副会長を委員長とする「臨時協会事業検討委員会」が設置され，協会の運営経費節減について検討が進められてきました．その結果が4月23日の理事会にて，会長に答申されました．その中で，特に本誌の編集に関連した重要な事項は，「鉄と鋼」誌に組み込まれている講演大会の概要集を分離して，別途販売することとし，図書館等で図書として保存されるように定期刊行物の形を取ること，および，論文投稿者に別刷り購入を義務づけることなどです．

特に前者については，他の学会誌にない本誌の特徴であり，講演大会に出席できなくても，発表の概要を居ながらにして知ることができるとか，バックナンバーの中に自動的に組み込まれるため，過去の発表を捜すのに極めて便利であるとか，いろいろ重宝しているものです．長年馴れ親しんできたこの方式を変えねばならないということは，誠に残念な気がしますが，それによつて大幅に経費が節減できるのであれば，現在の状況からはやむをえないことなのでしよう．

本誌とは別の定期刊行物にするとき，その誌名，形態，価格，等は編集委員会を中心にいろいろ検討が進められていますが，恐らくは来年号から新しいスタイルになつていくものと思われます．たとえスタイルが変わつても，これまで同様あるいはよりいつそうの，充実した内容と水準の高さを維持していきたいと思つています．皆様の御協力をお願い致します．

(M. T.)